

登録コード	UAF41500	開講年度	2026			
授業題目	臨床心理面接特論（心理支援に関する理論と実践）				担当教員	高橋 史 他
					副担当	川崎 隆
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【研究科共通】自身の専門分野における高度な知識と技能を有する。				専門学問分野における知識・技能を備え、それらに応用できる	
	【心理・長野臨床】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				カウンセリング技術の背景にある知識を備え、それらに応用できる	
	2 6 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学，2 5 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				カウンセリング技術の背景にある知識を備え、それらに応用できる	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				心理学の基礎知識を応用して相談・助言を展開できる	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				心理学の基礎知識を応用して相談・助言を展開できる	
(2)授業の概要	心理療法の理論と方法に関する各授業回では、発表者からの情報提供を受けてディスカッションをする。応用の各授業回では、特定の事例について複数の理論的立場から考察・支援方法を立案するディスカッションを行う。授業の後半では、模擬事例に対する心理面接を通して、適切な支援方法の選択と調整のあり方について学ぶ。全体を通して、担当教員が精神科医療等の実務経験を活かして講義・指導を行う。					
(3)授業計画	第1回：臨床を支えるエビデンスの情報収集 第2回：エビデンスに基づく実践：双極症 第3回：エビデンスに基づく実践：不眠障害 第4回：エビデンスに基づく実践：注意欠如／多動症 第5回：エビデンスに基づく実践：うつ病 第6回：エビデンスに基づく実践：限局性恐怖症 第7回：エビデンスに基づく実践：強迫症 第8回：心理に関する相談、助言、指導等への応用(1)：不安障害の事例 第9回：心理に関する相談、助言、指導等への応用(2)：うつ病の事例 第10回：心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整(1)：初回面接の進め方 第11回：心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整(2)：精神症状と環境要因のアセスメント 第12回：心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整(3)：ケースワーク 第13回：心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整(4)：支援の停滞・失敗を検知する 第14回：心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整(5)：心理支援を終結する 第15回：全体のまとめ：授業アンケートの実施 期末試験の有無 無 期末レポートの有無 有 ＊授業最終回に授業アンケートを実施します					
(4)成績評価の方法	・授業のねらい の到達度を表す授業中のディスカッション参加：50% ・授業のねらい および の到達度を測る期末レポート：50% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80% 優，79-70% 良，69-60% 可，59%以下 不可					
(5)成績評価の基準	() 問題の設定が適切であること。 () その問題の背景を説明できていること。 () その問題にどのような課題があるのかを指摘できていること。 () それらの課題に対しての先行研究の知見に基づく解決策が適切に把握できていること。 () その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあること。 ・() から() の5項目すべてを満たしていれば「卓越している」。4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。					
(6)事前事後学習の内容	授業内容に関する予習を十分に行い、授業中に配布される資料などを使って授業内容を十分に復習してから次回授業に臨むことを必須とする。					
(7)履修上の注意	・授業で紹介される事例について、授業外で口外しないこと。守秘義務を意識すること。 ・自習に時間を割くことを苦にしない学生の受講を求める。					

(8)質問,相談への 対応	高橋史研究室（東校舎 4 階 E406） TEL:026-238-4231 e-mail:f_taka@shinshu-u.ac.jp 川崎隆研究室（東校舎 4 階 E407） TEL:026-238-4409
【教科書】	指定しない
【参考書】	青木省三『精神科治療の進め方』、日本評論社、2014年、ISBN：978-4535983953